

# 保健体育科学学習指導案

日 時 平成30年6月1日(木) 公開授業 I  
学 級 岩手大学教育学部附属中学校  
2年D組(男子20名女子20名)  
会 場 体育館  
授業者 加賀智子

## 1 単元名 球技 ゴール型 バasketボール

### 2 単元について

#### (1) 生徒観

対象の生徒は男子12人、女子13人が運動部に所属しているか校外で日常的にスポーツに取り組んでいる生徒で、4割近い生徒が文化部に所属し日常の運動量や経験が少ない傾向にある。Basketボール部員は男子4名、女子2名である。また、小学校時にはボールやゴール、ルールを工夫したBasketボールの学習を行ってきた生徒がほとんどである。

事前の実態調査において、「運動することが好きか」尋ねたところ「はい」と回答した生徒は男子16名女子14名であった。「Basketボールの授業に興味があるか」尋ねたところ「興味がある」と回答した生徒は男子13名、女子17名であった。その理由は右の通りである。反対に「興味がない」と回答した生徒は「できない」、「わからない」ことが理由として挙げられている。このことから「できた」、「わかった」という達成感を味わえる授業展開していくことが必要だとわかった。

また、これまでの経験からBasketボールのおもしろさを「チームプレーであること」「シュートが決まった時の喜び」「素早い動き」と回答している。このことから、Basketボールの特性を十分味わってきている生徒が多いことが分かった。

「今回の授業で期待すること」は右のような内容が挙げられた。

以上のことを踏まえ、これまで味わってきたBasketボールの特性を十分に味わわせながらも、個に配慮した手立てを組み、誰もがBasketボールを楽しめる授業展開を構築していきたいと考える。

興味がある	興味がない
<ul style="list-style-type: none"><li>・楽しいから</li><li>・うまくなりたから</li><li>・Basketボールが好きだから</li><li>・ずっと動いているスポーツだから</li><li>・チームプレーだから</li><li>・あまり関わったことがないから</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・下手だから</li><li>・運動が苦手だから</li><li>・日常で触れないから</li><li>・ボールが硬いから</li><li>・ルールがわからないから</li></ul>

今回の授業で期待すること
<ul style="list-style-type: none"><li>・技術の向上</li><li>・チームワークの向上</li><li>・体力の向上</li><li>・ゲームをたくさん行うこと</li><li>・みんなが全力でプレーすること</li><li>・楽しさを感じる</li><li>・知識を学ぶこと</li></ul>

#### (2) 教材観

球技は、個人やチームの能力に応じた作戦を立て、集団対集団、個人対個人で勝敗を競うことに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

小学校では、「ゲーム」と「ボール運動」で簡易化されたゲームでルールを工夫したり、チームの特徴に応じた作戦を立てたりして攻防を展開できるようにすることをねらいとした学習に取り組んでいる。

中学校では、これらの学習を受けて、基本的な技能や仲間と連携した動きを発展させて、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームが展開できるようにすることが求められる。

したがって、第1学年及び第2学年では、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的なボール操作と仲間と連携した動きで攻防を展開できるようにする。その際、攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにすることが大切である。また、学習に積極的に取り組み、作戦などについての話合いに参加することや一人一人の違いに応じたプレイなどを認めることなどに意欲をもち、健康や安全に気を配ることができるようになることが大切である。

「ゴール型」Basketボールは、ドリブルやパスなどのボール操作で相手コートに侵入し、シュートを放ち、一定時間内に相手チームより多くの得点を競い合うゲームである。

本校では2年生で「ゴール型」の球技を学習するため、個人のボール操作やボールを持たないときの動きといった「ゴール型」の基本的技能の習得をねらいたい。そしてその技能を状況に応じてよりよく発揮し、仲間と連携して攻防が展開できるようチーム力を高めさせていく。バスケットボールは、これらのねらいに向かってチーム内で協力して練習したり、話し合っって課題解決をしていくことが展開しやすく、個人やチームの高まりが期待できる教材である。このことが、保健体育科でねらう「学びの本質」を深めることにつながり、おいては保健体育科の「目標」や生涯スポーツにつながる資質を育てることができると教材であると考ええる。

### (3) 学びの本質に迫る指導とその評価について

#### ① 学びの本質に迫る指導

【見方・考え方を働かせる学びのプロセス】

##### I 課題を把握する。

- ・ 目指す動きと自己の動きの比較による複数の「違い」を把握する。
- ・ 目指す動きと自己の動きの違いをとらえ、改善すべきポイントを見付ける。
- ・ 目指す動きに近づけるためにもっとも重要だと考えられるものを見つけ出し、それを課題としてとらえる。

##### II 自己の課題を改善できる練習を選択する。

運動実践の場面で、自己の課題に応じて適切な練習を選ぶ。

##### III 学習した知識や技能を活用して、自己や仲間の課題に応じて解決する。

- ・ お互いに出来映えを相互評価し、よりよいものを目指す。
- ・ 作戦などの話し合いの場面で、合意を形成するための適切にかかわる。
- ・ 思考、判断したことを、根拠を示しながら相手に伝える。

##### IV 自分の学びを振り返る、運動の特性をとらえる。

- ・ 学習を振り返り、どのような力が身についたかということを自覚的に振り返り、次の場面に役立てる。
- ・ 各種目の運動のそのものの本質的な価値をとらえる。

「学びの本質」に迫る指導は以下の通りである。

#### 【視点1】「問い」が生まれる学習課題の工夫

- ①授業の導入では、生徒自身が自分のこととしてとらえるように、前時の振り返りを活用し、自分や学級の仲間の実態に基づいた資料提示をし、既習内容を想起させる。【前時の振り返り提示】
- ②iPadを活用し、生徒が映像で目指す動きと自分の動きとの違いを把握させる。【iPad活用】

#### 【視点2】生徒の学びを深める過程の追求

- ①学びを深めるかかわり合いの工夫。【学習形態の工夫】
- ②生徒の「問い」が継続する教師の手立て。
  - (導入) → 「既習内容」や「概念」を問う。
  - (展開1) → 「根拠」, 「方法」, 「関連」を問う。
  - (展開2) → 「よりよい考えや表現を求めて」問う
  - (終末) → 「よさ」, 「根本概念」を問う。

#### ② 学びを深める評価【視点3】

～学びの本質に迫るための評価～

#### 【めざす姿から逆算して「指導と評価の計画」を作成。(単元デザイン)】

- ・ 単元計画では、評価の機会に着目した「単元構造図による指導内容と学習の流れ、評価機会と方法の計画」を作成し単元の中で評価機会をより吟味する。

#### 【指導や学習のための「課題解決としての評価」】

- ・ 「はじめの姿→めざす姿→最終的にめざす姿」を明確に共有し、教師と生徒、生徒同士フィードバックする。
- ・ 学びを深めるかかわり合いの場面で、生徒とのやりとりの中で思考を見える化する。

#### 【学習カードの工夫(技能チェックシートの活用)】

- ・ 単元での変容を見とることができる形式。

**【評価基準の具体化】**

- ・生徒と基準の共有。実際の振り返り場面で、生徒の状況を捉えながら、基準を共有する。

**【振り返りシートからの見とり】**

- ・単元での学びを見とる。単元の中でどのように課題解決を図ってきたのか、思考が見える形で振り返ることができるような内容で問う。

**3 単元の指導目標及び評価規準**

**(1) 指導目標**

- ・勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解させるとともに、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防ができるようにする。 (知識及び技能)
- ・攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫させるとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 (思考力、判断力、表現力等)
- ・積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする、仲間の学習を援助しようとするなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。 (学びに向かう力、人間性等)

**(2) 評価規準**

- ・勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解させるとともに、ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防を展開している。 **【運動や健康についての知識及び技能】**
- ・攻防などの自分の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。 **【運動や健康についての思考・判断・表現】**
- ・積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦などについての話し合いに参加しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする、仲間の学習を援助しようとするなどや、健康・安全に気を配っている。 **【主体的に学習に取り組む態度】**

**4 単元の指導計画・評価計画**

**(1) 指導計画 (12時間)**

時数	学習内容	活動内容
1	○特性や成り立ち、関連して高まる体力を理解すること。(知識①) ○学習に積極的に取り組もうとすること。(態度①) <b>【学習の見通しをしっかりと】</b>	オリエンテーション ・オリエンテーションを行い、授業のねらいや約束、特性や歴史、学習計画を学習シートに記入する。 ・ウォーミングアップ、ボール操作ドリルの内容を知る。
2	○技の名称やそれらの技能ポイントについて学習した具体例を挙げている。(知識②) <b>【基本スキルのポイントを学ぼう】</b>	・ボール操作(パス・ドリブル)や基本的な動き(ストップ・ピボット)の行い方を学ぶ。 ・ボール操作や基本的な動きをポイントに気を付けて行う。
3	○パスでボールを進めてシュートを打つこと。(知識④) <b>【パスランシュートのポイントを学ぼう】</b>	・シュートドリルの行い方を学ぶ。 ・シュートドリルのポイントを学習シートに記入する。
4	○ゲームのルールを理解すること。(知識③) ○パスを受けるために、ゴール前の空いている場所に動いたり、マークされていない味方にパスをすること。(知識⑤) ○フェアなプレイを守ろうとすること。(態度②) <b>【3on2のゲームをしよう】</b>	・ゲームのルールを学ぶ。 ・3人対2人のタスクゲームを行う。 ・パスをつなぐためのポイントを学習シートに記入する。 ・「フェアなプレイ」について確認する。

5	○確認したパスをつなぐための動きのポイントを参考に、仲間の出来映えを伝えている。 (思考①) <b>【パスのポイントを意識してゲームを行おう】</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3人対2人のタスクゲームを行う。</li> <li>・動きのポイントを確認し、ポイントを意識してゲームを行う。</li> <li>・仲間の「パスをつなぐための動きの状態」を学習シートに記入しチームで伝え合う。</li> </ul>
6	○作戦などの話し合いに参加すること。 (態度③) ○健康・安全に気を配ること。(態度⑤) <b>【パスをつないでシュートを打とう】</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3人対2人のタスクゲームを行う。</li> <li>・「健康・安全に授業に取り組む姿勢」を確認する。</li> </ul>
7	○ゲームのルールを理解すること。(知識③) <b>【3on3のゲームをしよう】</b> ◆ハーフコート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3人対3人のタスクゲームを行う。</li> <li>・ゲームのルールを学ぶ。</li> </ul>
8	○ゴール方向に守備者がいない位置でシュートすること。(知識⑤) <b>【ポイントを意識してゲームを行おう】</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3人対3人のタスクゲームを行う。</li> <li>・ノーマークでシュートを打つためのポイントを学習シートに記入する。</li> </ul>
9 本時	○練習やゲームの場面で、最善を尽くす、フェアなプレイなどのよい取り組みを見付け、理由を添えて他者に伝えること。(思考・判断②) <b>【チームの作戦を実行しよう】</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3人対3人のタスクゲームを行う。</li> <li>・ゲームを観察し、良いプレイ(最善を尽くす、フェアなプレイ)を伝え合う。</li> </ul>
10	○一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする事。(態度④) <b>【5on5のゲームをしよう】</b> ◆オールコート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5人対5人のゲームを行う。</li> <li>・「みんながゲームを楽しめるルール」を確認する。</li> </ul>
11	○体力や技能の程度、性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための練習やゲームを行う方法を見付け、仲間に伝えること。(思考・判断③) <b>【チームの作戦を実行しよう】</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まとめのリーグ戦を行う。</li> <li>・みんなで練習やゲームを楽しむための方法を伝え合う。</li> </ul>
12	○総括的評価 <b>【学習のまとめとなるゲームをしよう】</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リーグ戦を行う。</li> <li>・単元の学びを振り返る。</li> </ul>

## (2) 単元及び学習活動における具体的評価規準

知識及び技能	<p>①特性や成り立ち、技の名称や行い方、関連して高まる体力について、学習した具体例を挙げている。</p> <p>②技の名称やそれらの技能ポイントについて学習した具体例を挙げている。</p> <p>③ゲームのルールについて学習した具体例を挙げている。</p> <p>④パス、ドリブルでボールを進めてシュートを打つことができる。</p> <p>⑤パスを受けるために、ゴール前の空いている場所に動いたり、マークされていない味方にパスをすることができる。</p> <p>⑥ゴール方向に守備者がいない位置でシュートすることができる。</p>
思考・判断・表現	<p>①確認した動きのポイントを参考に、仲間の出来映えを言葉や文章で表している。</p> <p>②練習やゲームの場面で、最善を尽くす、フェアなプレイなどのよい取り組みを見付け、理由を添えて他者に伝えている。</p> <p>③体力や技能の程度、性別等の違いを踏まえて、仲間とともに楽しむための練習やゲームを行う方法を見付け、仲間に伝えている。</p>
主体的に学習に取り組む態度	<p>①球技の学習に積極的に取り組もうとしている。</p> <p>②フェアなプレイを守ろうとしている。</p> <p>③作戦などの話し合いに参加しようとしている。</p> <p>④一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとしている。</p> <p>⑤健康・安全に留意しようとしている。</p>

(3) 単元構造図による指導内容と学習の流れ、評価機会と方法の計画

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
学習の流れ	運動の特性や学習のねらい計画を理解する	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">(準備体操, 今日の学習内容の確認) ウォーミングアップドリル</div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 20%; border: 1px solid black; padding: 5px;">ボール操作や基本的な動き</div> <div style="width: 30%; border: 1px solid black; padding: 5px;">ハーフコートの3人対2人のゲームを通してスペースへの動きとその味方にパスをすることをねらう。</div> <div style="width: 30%; border: 1px solid black; padding: 5px;">ハーフコートの3人対3人のゲームを通してディフェンスを振り切ってパスを受けたりゴール方向に守備者がいない位置でシュートを打つことをねらう。</div> <div style="width: 20%; border: 1px solid black; padding: 5px;">これまでの動きを生かして5人対5人のゲームを行うことをねらう。</div> </div>											
	指導と評価の機会	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">バスケットボールの特性や成り立ち, 技術の名称や行い方を理解している。</div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 15%; border: 1px solid black; padding: 5px;">①特性歴史ねらい約束学習計画</div> <div style="width: 15%; border: 1px solid black; padding: 5px;">②技能ポイント</div> <div style="width: 15%; border: 1px solid black; padding: 5px;">③ルール理解</div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;">ゲームを展開するための基本的なボール操作や仲間と連携した動きを身に付いている。</div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 5px;"> <div style="width: 15%; border: 1px solid black; padding: 5px;">④ボール操作</div> <div style="width: 15%; border: 1px solid black; padding: 5px;">⑤動きながらのパス</div> <div style="width: 15%; border: 1px solid black; padding: 5px;">⑥フリーシュート</div> </div>											
思考・判断・表現	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">自分の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。</div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%; border: 1px solid black; padding: 5px;">①課題、出来映えを伝える</div> <div style="width: 30%; border: 1px solid black; padding: 5px;">②良い取り組みを伝える</div> <div style="width: 30%; border: 1px solid black; padding: 5px;">③楽しむための方法を伝える</div> </div>												
主体的に学習に取り組む態度	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること, 作戦などについての話し合いに参加しようとする, 一人一人の違いに応じたプレイなどを認めようとする, 仲間の学習を援助しようとするなどや、健康・安全に気を配ることができる。</div> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 15%; border: 1px solid black; padding: 5px;">①積極的</div> <div style="width: 15%; border: 1px solid black; padding: 5px;">②フェアプレイ</div> <div style="width: 15%; border: 1px solid black; padding: 5px;">③話し合いに参加</div> <div style="width: 15%; border: 1px solid black; padding: 5px;">④違いを認める</div> <div style="width: 15%; border: 1px solid black; padding: 5px;">⑤健康・安全</div> </div>												
評価機会と方法	知識技能	①☆	②☆	①	③☆	①	②	③	②	③	③		総括的評価
思考判断					①☆			②☆			③☆		
態度	①		①	②	②			③		③			

度		←→				⑤	←→	⑤				④	←→	④	
---	--	----	--	--	--	---	----	---	--	--	--	---	----	---	--

【評価方法】

○指導の機会、←→ ●観察評価期間、VTRによる判断 ☆学習プリントなどによる評価・定期的活用

5 本時について（8/12時間）

(1) 主 題 バスケットボール

(2) 指導目標

練習やゲームの場面で、最善を尽くす、フェアなプレイなどの良い取り組みを見付け、理由を添えて他者に伝えることができる。

(3) 評価規準

練習やゲームを観察し、よいプレイ（最善を尽くす、フェアである）を仲間に伝えることができる。

【運動や健康についての思考・判断・表現】

(4) 指導の構想

中学校で初めて「ゴール型」の球技に取り組んで8時間目にあたる。バスケットボールに対する苦手意識がある生徒も少なくないことから、ボールに慣れることを第一に授業を展開してきた。ゲームにおいても人数はオフェンスが3人、ディフェンスが2人でオフェンスを有利な状態にし、パスをつなぐためのスペースが出現しやすくなるようにしてきた。

本時は、ディフェンスの人数を増やして3人対3人でゲームを行う。数的同意の状況下でもディフェンスを振り切ったり、かわしたりして空いている場所でボールをつないだり、ドリブルでディフェンスを引きつけてノーマークになった味方にパスを出したりしながら、ゴールの方向に守備者がいない位置でシュートすることをねらっていきたい。このようなタスクゲームを中心に据えて授業を組み立て、仲間のよい取り組みがわかり、互いの頑張りを称え合える授業展開を構築したい。

① 導入について

基本動作ドリルを行いながら、バスケットボールにおける体の使い方を身に付けさせていく。また、ボール操作ドリルを行い技能の習得をねらっていく。

前時の学習から課題を設定し、本時の学習課題を確認する。その学習課題から「どのようにすればよいのだろう」「ほかの方法はないか」という問いを生徒に持たせながらゲームに取り組ませる。また、仲間のよいプレイ（最善を尽くす、フェアである）を見つける時間であることを説明し、観察することを伝える。

② 本時の展開場面について

3人対3人でゲームを行う。ディフェンスを振り切ったり、かわしたりして空いている場所でボールをつないだり、ドリブルでディフェンスを引きつけてノーマークになった味方にパスを出したりしながら、ゴールの方向に守備者がいない位置でシュートすることを意識させてゲームに取り組ませる。

③ まとめについて

仲間のよいプレイ（パス、シュート、最善を尽くす、フェアである）について、個人、チーム、全体で交流する。次時はそのよさを生かしてゲームを行っていくことを確認する。

(5) 本時の展開

段階	学習活動および学習内容	時間 (分)	評価規準及び評価方法 ○学びの本質に迫るための評価 ●学びの本質に迫ったかを見とる評価
導入	0 3分前おにごっこを行う。 1 体操、整列、あいさつ、健康観察を行う。 2 基本動作、ボール操作ドリル、シュートドリルを行う。 3 学習課題把握  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <b>チームの作戦を実行しよう</b> </div>	12	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>—学びの本質—</p> <p>「課題解決に向けて、知識を実践的に活用し、運動の行い方を工夫し、スポーツとのかかわり方を楽しむことができる力」を身につけること</p> </div>
展開	4 3人対3人のゲームを行う。	30 (42)	
終結	5 学習の振り返り ・個人でチームの仲間のよいプレイを振り返る。 ・チームミーティングを行い、よいプレイを伝え合う。 ・よいプレイを次時にもつなげ、互いに取り組んでいくことを伝える。  6 整理運動  7 あいさつ	8 (50)	○仲間のよいプレイを言葉や文章で表している。 <b>【思考・判断・表現】</b>